

令和2年度 事務事業総点検シート(1)  
[ 令和元年度事務事業 ]

一般会計					事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	結核接触者健診・患者管理				シート番号	011-234
担当部署名	健康福祉	局	健康部 保健所	部	感染症対策	課 評価責任者(課長名) 中井

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	1	暮らしの確かな安全・安心を確保します	後期実施計画の位置付け
			施策	1	市民の命を守る健康・医療体制の強化	無
	2	事業開始年度	昭和 26 年度		終了(予定)年度	— 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律			
	4	関連計画				
5	事業実施の経緯	結核は、かつて国民病と言われるほど患者数も多く、また不治の病と恐れられていた。治療薬の普及、栄養・衛生状態の改善などにより患者数は激減したが、未だに国内で毎年約16,000人の結核患者が新たに発生し、毎年約2,200人の人が結核で亡くなっている。現在も患者等の人権に配慮しながら、治療終了後の患者や接触者が適切な時期に健診を受け、発病や再発を早期に発見できるよう、支援が必要である。				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 ( ) <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ( )					
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか)	全市民					
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか)	①治療終了後の患者が適切な時期に健診を受け、再発の早期発見を支援する。 ②接触者に対し、健診を実施し、発病前の潜在性結核感染症(LTBI)及び発病を早期に発見する。 ③患者の発生状況を国に報告することにより、全国的な結核対策に役立てる。 上記①②③により地域での結核のまん延を防止する。					
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	・患者家族及び接触者健診の実施 ①IGRA検査(結核菌の感染の有無についての血液検査) ②胸部エックス線検査等(結核発病の有無についての検査) ・管理検診の実施(治療終了後の患者に対する精密検査) ①胸部エックス線検査 ・患者管理の実施 ①喀痰塗抹陽性患者への面接 ②登録者情報システム等による患者管理 <input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 ( )					
10	直接実施以外の主な支出先	一般社団法人 堺市医師会 ほか						

Ⅲ. 投入量

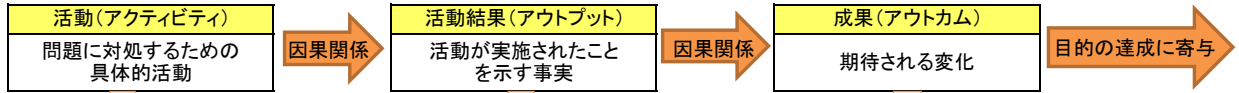
項目	単位	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	
11 事業費(a)	千円	11,085	8,237	9,431	7,932	8,559	15,765	9,053	
主な事業費内訳	委託料	千円	7,220	5,485	6,501	6,029	6,222	13,026	6,112
	その他(需用費等)	千円	3,918	2,752	2,930	1,903	2,337	2,739	2,941
		千円							
		千円							
財源内訳	国・府支出金	千円	4,487	2,550	2,889	2,692	2,859	2,983	2,910
	受益者負担金(使用料、手数料等)	千円							
	市債	千円							
	その他( )	千円							
一般財源	千円	6,598	5,687	6,542	5,240	5,700	12,782	6,143	
12 人件費(b)	千円	22,856	22,856	24,460	24,460	23,870	23,870	24,410	
13 総コスト(c)=(a)+(b)	千円	33,941	31,093	33,891	32,392	32,429	39,635	33,463	

# 令和2年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	結核接触者健診・患者管理	シート番号	011-234
-------	--------------	-------	---------

## Ⅳ. 評価(測定・分析)》

### ロジックモデルの考え方



[14] 令和元年度実績の欄に定性的・定量的情報も含め、活動・結果・成果について具体的に記載

[15]または[16]に定量的な指標、または定性的な目標を記載

【達成率に基づいた評価基準】

評価	達成率
大変良い	120%以上
良い	100%以上120%未満
普通	80%以上100%未満
少し悪い	60%以上80%未満
悪い	60%未満

### 事業の活動実績や成果

		令和元年度実績						
活動実績と成果	14	<p>結核の患者が発生した場合、保健師による疫学調査を実施し、接触者等の確認を行う。調査結果を基に月2回、所内で開催する接触者健診検討会において接触者健診実施対象者を決定する。健診内容は主に医療機関委託の胸部エックス線検査と血液検査(IGRA検査)(一部保健所実施)で、場合によって菌検査やツベルクリン反応検査を追加実施する。令和元年は胸部エックス線検査受検者数284名、IGRA検査受検者数628名でうち潜在性結核感染症(LTBI)と診断された者が37名、結核と診断されたものは1名だった。</p> <p>感染源及び感染経路の調査では全新登録喀痰塗抹陽性患者の菌株を病院等からの分譲を受け、同一遺伝子型の菌での集団発生等がないか注視している。</p> <p>また、治療終了後の患者に対しては再発防止のため管理検診を実施した。検診内容は医療機関委託の胸部エックス線検査で、こちらも場合によって菌検査を追加実施する。令和元年は延べ175名実施し、結核再発が判明した者が1名だった。</p> <p>また感染症法第19条及び第20条の規定に基づき、応急入院後3日以内に面接を実施した。面接により適切な患者管理と感染症法第20条に基づく勧告入院に係る意見付与を行った。</p>						
	15	指標名【成果指標】	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		接触者健診受診率	%	目標値	98	98	98	98
				実績値	96	97	98	
				達成率	98%	99%	100%	
	評価			普通	普通	良い		
	算出方法・設定根拠など		新規登録患者の接触者のうち2か月以内に実施した健診者数の割合。堺市の結核対策の推進に向けた基本目標参照					
	16	指標名【活動指標】	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		3日以内の面接実施率(新登録喀痰塗抹陽性患者)	%	目標値	100	100	100	100
				実績値	100	100	100	
				達成率	100%	100%	100%	
	評価			良い	良い	良い		
	算出方法・設定根拠など		新登録喀痰塗抹陽性患者のうち感染症法第19条に基づく応急入院後3日以内に面接を実施した患者の割合					

### 事業の効率性

		区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
17	①						
	②	上記①にかかる年間経費	千円				
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位				
	備考(算出についての説明等)		接触者検診は受診者によって、検診方法・単価が異なるため効率性の算出にそぐわない。				
18			区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	①						
	②	上記①にかかる年間経費	千円				
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位				
備考(算出についての説明等)							

### 業績の分析

19	目標を達成できた、または達成できなかった要因や効率性についての分析(その他、関連情報に基づいた分析)
	<p>接触者健診については対象者へ健診の勧告を送付し、電話等でも説明を行っている。受診されない対象者には改めて再勧告と電話等での説明を行っていることもあり目標を達成できた。結核や接触者健診の重要性について啓発を強化するとともに、実施協力医療機関を増やすなど接触者健診受診の利便性を高める必要がある。なお、未受診者に対しては定期的に本人や関係者と連絡を取り、健康状態の確認を行っている。</p> <p>新登録喀痰塗抹陽性患者に対し、感染症法第19条に基づく応急入院後3日以内の面接実施を徹底することができた。厚生労働省による公衆衛生関係事務指導監査において定期的にチェックを受け、確認を行っている。</p>

#### 【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 有効性は高いですか。低いですか。
- 効率性は向上していますか。
- RPA等をはじめとするICTを活用する余地はありませんでしたか。
- ターゲットに応じた最適媒体の選定など、戦略的な広報ができていましたか。

令和2年度 事務事業総点検シート(3)

事務事業名	結核接触者健診・患者管理	シート番号	011-234
-------	--------------	-------	---------

《V. 点検》

＜点検の前提＞

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、本市の財政運営は今後一層厳しくなる
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止と社会経済活動の両立をめざす

○上記「点検の前提」を踏まえ、事業の抜本的な見直しを検討するもの。



<input checked="" type="checkbox"/>	確認
-------------------------------------	----

コロナ禍を踏まえた点検（必要性・有効性・効率性）	20	本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を廃止できないか。	<b>事業廃止の可能性</b> <input type="checkbox"/> 廃止できる <input checked="" type="checkbox"/> 廃止できない	<b>廃止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響</b> 結核患者が発生した場合に、当患者の同居家族及び接触者に対する健診を行うことで、二次感染の防止をする必要がある。また、治療を完了した結核患者に対しても終了後に管理検診を行うことで再発がないかを確認している。 これらのことから、結核患者の早期発見・治療を目指し、まん延を防止する必要があるので廃止できない。	
	21	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を休止(延期)できないか。	<b>事業休止の可能性</b> <input type="checkbox"/> 休止(延期)できる <input checked="" type="checkbox"/> 休止(延期)できない	<b>休止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響</b> 結核の新規患者及び治療中の患者は年間を通して、一定数存在するため、事業を休止することはできない。	<b>休止の場合の再開時期</b> <input type="checkbox"/> 令和2年度中 <input type="checkbox"/> 令和3年度 <input type="checkbox"/> 令和4年度以降
	22	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、事業規模を縮小するなど、コスト縮減を図ることができないか。	<b>コストの縮減</b> <input type="checkbox"/> 一部廃止しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 一部休止しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 規模等を縮小しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 事業手法等を改善しコスト縮減できる <input checked="" type="checkbox"/> 縮減できない	<b>縮減できる場合は具体的な縮減内容、できない場合はその理由</b> 接触者に対する健診や検査に関しては、二次感染の防止をするためには必要不可欠である。 また、治療を終了した患者に対しても管理検診を行うことで再発を防止している。なお、当該健診・検査は厚生労働省の定める診療報酬に基づき算出された金額であるため、コスト削減を図ることは難しい。	
	23	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 社会経済活動の維持・回復のほか、3密を避けるなどの市民や民間の活動変容への対応に向け、実施手法を改善する必要がないか。	<b>事業手法の適切性</b> <input type="checkbox"/> 改善する必要がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善する必要がない <input type="checkbox"/> 既に対応できている	<b>改善する場合は改善策、その他は理由</b> 結核治療完了している患者に対して、行っている管理検診については、医療機関等の混雑を考慮すると、受診時期をずらして、案内することは可能である。 接触者健診については、感染拡大を防止するという観点から、積極的な受診が必要である。	
	24	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 効果的・効率的な事業の実施に向け、右に掲げる視点から改善できないか。	効果的・効率的な事業実施(以下の観点で、改善する(または改善済)場合は■、改善しない(改善余地がない場合を含む)場合は□) ① <input checked="" type="checkbox"/> 公民連携の推進 ② <input checked="" type="checkbox"/> ICT活用による効率化 ③ <input type="checkbox"/> 他部局との適切な連携・役割分担 関係部署名 (                      ) 関連事業名 (                      ) ④ <input type="checkbox"/> 国・府等との適切な役割分担・連携 ⑤ <input type="checkbox"/> 他政令市等との比較におけるサービス水準の均衡 ⑥ <input type="checkbox"/> その他 (                      )	理由・説明	実施協力医療機関を増やすなど接触者検診受診の利便性を高める必要がある。また、未受診者に対しては定期的に本人や関係者と電話にて連絡を取り、健康状態の確認を行っているが、LINE等のアプリを活用しモバイル化を導入することも検討する。
25	これまでの点検を踏まえ、今後の事業のあり方についてどのように考えるか。	<b>事業の方向性</b> <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止または延期 <input type="checkbox"/> 事業を縮小 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状を継続 <input type="checkbox"/> 事業を拡充 <b>公金投入の方向性</b> <input type="checkbox"/> ゼロ <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡大	<b>実施年度</b> <input type="checkbox"/> 令和2年度 <input type="checkbox"/> 令和3年度 <input type="checkbox"/> 令和4年度以降		
		<b>所見</b> 新型コロナウイルス感染症の疑いがあるとして市民の受診要望が多くなり、医療機関がひっ迫している中、接触者健診やIGRA検査(血液検査)が実施可能な協力医療機関については、今後も協力していただくよう調整を行ったうえで、対象者の利便性を考慮し、今後は身近な医療機関で受けられるよう、実施医療機関の拡充も目指していく。 また、接触者検診等により発見された潜在性結核感染症患者に対して服薬の重要性を啓発するなど、発病を予防するための治療完遂に向けた取り組みについても推進していく。			